

病院と地域をむすぶ



パイプライン



2016年2月号

発行：総合病院 南生協病院

1
月
実
績

一日外来患者数：897.2人 一日入院患者数：281.3人 紹介患者数：471人
ベッド稼働率：91.2% 救急車：275台 手術数：108件
3月20日(日) 健康フェスティバルにご参加ください チケット 300円

褥創（じょくそう）はなぜできるのか？

褥瘡（床ずれ）とは、「持続的な圧迫によって組織の血流が減少・消失し、虚血状態・低酸素状態になり、組織の壊死が起こった状態」です。自分で体を動かせる人は、無意識に体を動かし、寝返りをうつなどして、体の同じ部位に長時間の圧迫がかからないようにしていますが、自分で体を動かすことができない人は、それらができず、褥瘡発生につながります。

原因は多岐にわたり、皮膚では、「摩擦・ずれ」「乾燥」「汗や失禁の汚れ」、全身的には、「栄養不足」「やせて骨が突出している」「麻痺、神経障害や循環障害などの持病がある」、社会的には、「介護力の不足」「福祉制度・サービスなどに関する情報の不足」などが挙げられ、それらが複雑に絡み合っています。

予防として、体圧分散や体位交換などにより局所に加わる力を小さくし、負荷がかかる時間を短くすること、皮膚の清潔・保湿・保護を基本としたスキンケアを行うこと、栄養の調節による内部からの皮膚を含めた組織の強化を行うことが重要です。

皮膚科 管理医長 田中伯予（たなか のりよ）

褥瘡回診を行っています

当病院に褥瘡予防対策委員会があるのはご存じでしょうか。院内にあるNST（栄養サポートチームの略）委員会の中にある褥瘡予防の対策チームです。活動メンバーは、皮膚科医師2名を中心に栄養士3名理学療法士2名看護師1名で構成されています。月に1回、褥瘡回診の依頼があった患者さまのところにメンバーで伺います。回診では、担当の病棟看護師とともに褥瘡の状態や大きさなど評価し、皮膚科医師により治療方法が決まります。褥瘡ができる原因を少しでも取り除くために患者様の体位の工夫や栄養状態はどうなのか等、それぞれの専門性を活かしながら関わるようにしています。現状は入院期間も短くなっていることや、褥瘡患者様も減っていることもあり、回診がない月もありますが、入院して褥瘡を作らない、悪化させないためにもこの活動を続けていきたいと思っております。（褥瘡回診は月1回ですので、褥瘡のあるかたはその都度医師にてフォローされています。）

褥瘡対策委員会 看護師清水多江子

縁の下の力持ち 庶務課のこだわり

病院の庶務課、と聞いてピンときますか？職員にはおなじみでも見学の時など素通りしてしまう場所かもしれません。わたしたちがこだわっているもの、それは「安くて、良い物を」「必要なものを、必要な時、場所に」です。

「安くて、良い物を」は例えば、処置用の手袋が使いにくいなあ～と言う声を敏感に察知して置き換えを徹底的に検討します。さらに商品は、現行品よりも安くて使い勝手の良いものを選ぶんです。「必要なものを、必要な時、場所に」はモノが多すぎると探せないし経費の無駄にもつながる、かといって少なかつたら使えない、困る、そんな悩みに応えるために在庫の確認や、薬剤カートの点検をして各現場に納品をしています。

そのほかにも、南医療生協64事業所の物品や困り事の手続き相談窓口として縁の下をささえています！気軽に御寄り下さいね♪

庶務課 小山田友保